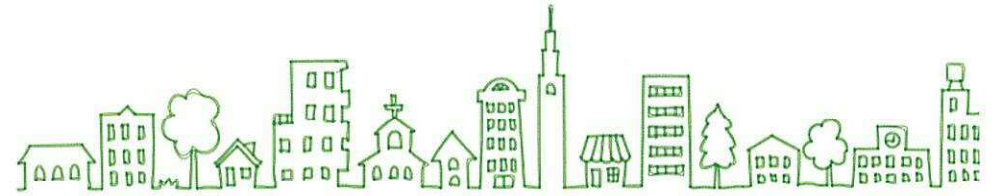
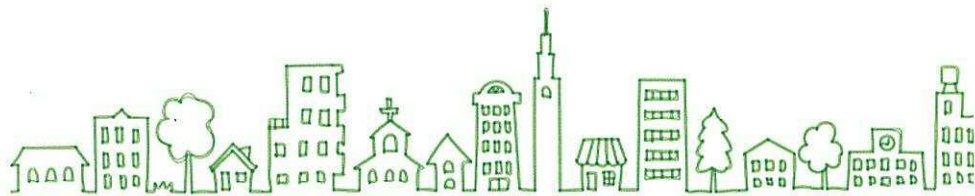


# カワサキケイカン ボードゲーム 【ニーズカード】



川崎市まちづくり局計画部  
景観・地区まちづくり支援担当

# ニーズカードについて

## ニーズカードの目的

このニーズカードには、将来の川崎市を担うみんなに、ぜひ知っておいて欲しい川崎市の素敵な景観をたくさん載せています。

このページからは、ニーズカードには書ききれなかった「その景観が見られる場所、歴史、特徴」などをたっぷり書きました。

これを読んで、一人でも多くのみんなに川崎市の景観に関心を持ってほしい、そして一緒に景観まちづくりに取り組んでほしいと思います。

## ニーズカードの4つの特徴

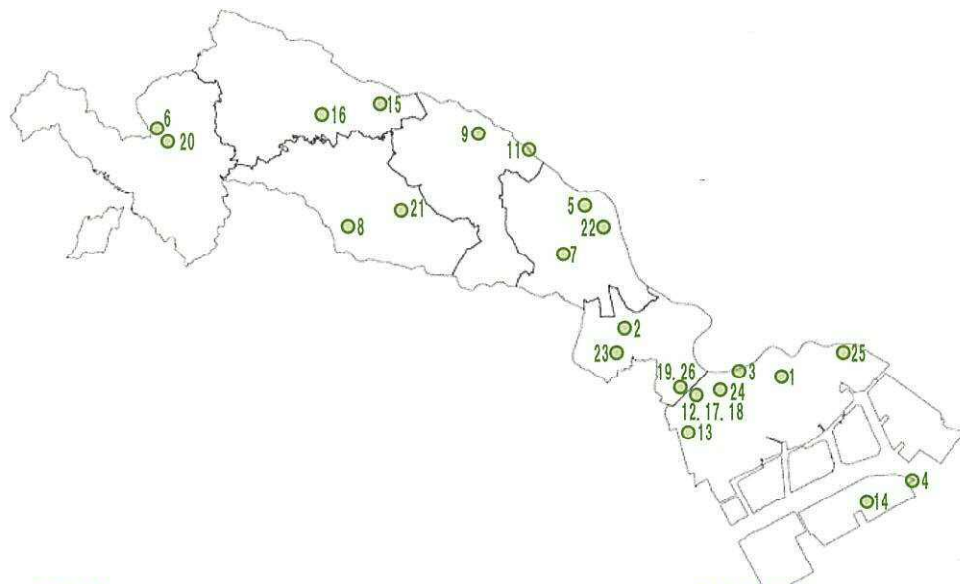
このボードゲームでは、川崎市の景観を

- ・人が多く住んでいる都会的な景観（都市景観）
- ・多摩川や生田緑地などの自然あふれる景観（自然景観）
- ・昔の街なみなどが残され、懐かしさを感じる景観（時間の流れ）
- ・お祭りや商店街など、人の活動等が感じられる景観（人の営み）

の4種類にわけています。

これらは景観の重要な要素になるので、ニーズカードでも表現しています。それぞれのニーズカードが何を表しているか考えながらプレイしてください。

# 川崎の魅力が詰まったニーズカードマップ



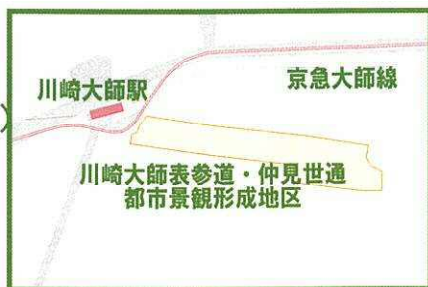
1. 歴史的な寺社と参道の商店街（※）
2. 昔ながらの商店街
3. のびのびとした景観がみられる多摩川沿い
4. 海を見渡すことができる開放的な公園緑地
5. スポーツやレクリエーション活動が楽しめる大きな公園緑地
6. 計画的に整備された住宅地
7. ヨーロッパのような落ち着きと温かみのある雰囲気のある商店街
8. 坂道のある地形を活用した見晴らしの良い公園
9. 昔のたたずまいを残す旧街道
10. 懐かしい風景を残す農地景観（地図省略）
11. 夜空に打ちあがる花火（※）
12. 地域のイメージが向上するイベント
13. 地域に根差した商店街
14. ライトアップされた工場夜景（※）
15. 市内を流れる用水を活用した水辺空間（※）
16. 四季が感じられる生田緑地（※）
17. 公共空間を活用したイベント
18. 明るい色合いで整備された川崎駅東口の駅前空間
19. 落ち着いた色合いで整備された川崎駅西口のまちなみ
20. 住民と行政が協力してつくられた地域の中心となるまち
21. 地域のシンボルとなる桜並木（※）
22. 再開発により生まれ変わったランドマークを活用したまち（※）
23. 先端的なものづくり施設等による次世代の先進性が感じられるまち
24. 周辺環境と調和した魅力的なデザインの公共施設
25. 街なみの顔となる魅力的なデザインの建築物
26. アート等が配置された広場

（※）印のニーズカードに使われている写真は、Kawasaki Townscape Collection（川崎市のInstagram）に掲載しているものの再掲載となります。

れきしてき

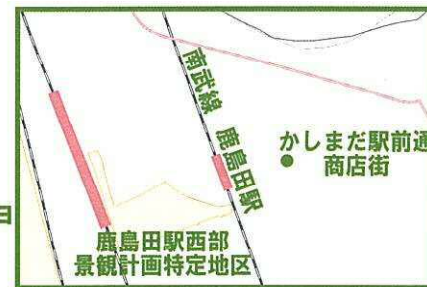
## 1. 歴史的な寺社と参道の商店街

れきしてき 歴史的なお寺や神社とその周辺に  
 歴史的な景観が多くあり  
 川崎区にある川崎大師(平間寺)  
 は900年ほど前につくられた古いお  
 寺で、厄除け大師として市内外から  
 人が訪れます。写真は川崎大師の仲  
 見世通りです。古くからお参りする人向けの店舗がならび、にぎわい  
 をみせています。そうした伝統的な景観を残すため、この地区は平成  
 29年に「川崎大師表参道・仲見世都市景観形成地区」に指定され、  
 地元の方が中心となって、景観まちづくりを進めています。※都市景  
 観形成地区とは、地区の住民が主体的に建物の色や広告物について  
 のルールを定めている地区のことです。



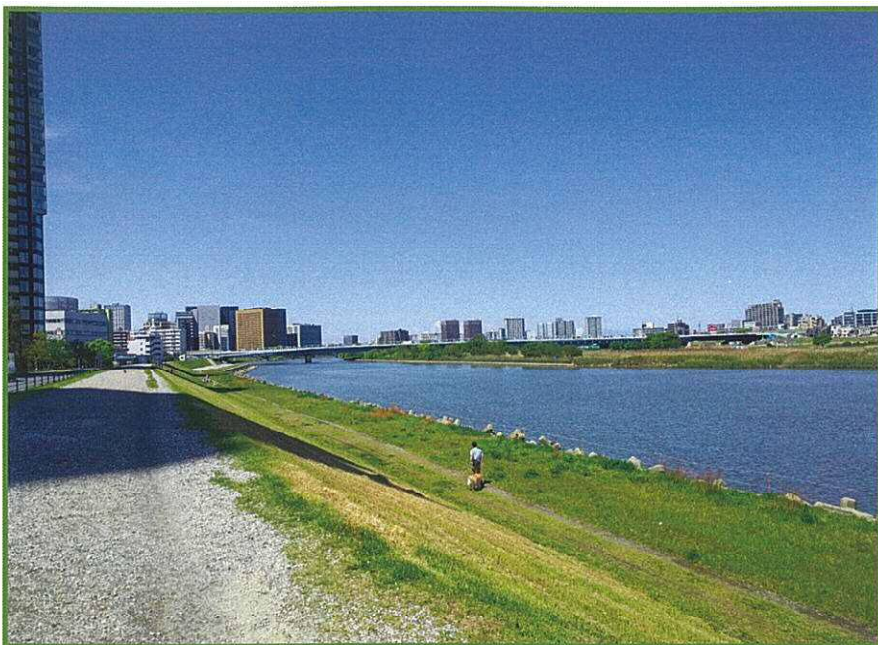
## 2. 昔ながらの商店街

川崎市の南部地域では、早くから  
 鉄道が整備され、臨海部や鉄道沿線  
 を中心に工業都市として発展しまし  
 た。現在はそうした工場跡地等にお  
 いて再開発が進み、超高層のマンシ  
 ョンや商業施設など、都会的な景観へ  
 と生まれ変わっています。しかしそのすぐ近くでは、身近な生活を支  
 える昔ながらの商店街があり、今なお下町情緒が残る場所もあります。  
 写真は幸区のかしまだ駅前通商店街です。川崎市では駅の西側の地  
 区を平成26年に鹿島田駅西部景観計画特定地区の指定を行いました。  
 ※景観計画特定地区とは、地区の良好な都市景観を維持・発展さ  
 せていくため、川崎市が主体的に建物の色や広告物について  
 のルールを定めている地区のことです。



### 3. のびのびとした景観がみられる多摩川沿い<sup>たまがわぞ</sup>

多摩川は、都市における貴重な水と緑あふれる開放的なスペースです。川崎市を代表するのどかな河川景観など、地域の景観と調和した河川の景観は守るだけでなく、スポーツやレクリエーション、文化活動などに有効に活用できるようにすることが求められています。また、多摩川にかかる橋は、市民にとってのびのびとした景色を眺めることができるものであると同時に、雄大な景観を形づくる重要な要素となっています。



### 4. 海を見渡すことができる開放的な公園緑地<sup>かいほうてき</sup>

東扇島東公園は、海辺におけるレクリエーションや地震などの災害時の活動の中心地として整備されています。市民が利用できる公園や緑道等もあり、海を眺めることができる開放的な場所となっています。



工場等が多く集まる海側の臨海部では、地域の環境を良くすること、色々な生き物が生息できる環境を守ること、景観を良くすることなどを目指し、事業者と川崎市が協力し合い緑化を進めています。



## 5. スポーツやレクリエーション活動が楽しめる 大きな公園緑地

富士見公園や等々力緑地などの大きな公園においては、広くて開放的な空間を活かして、競技場や野球場が整備されています。市内だけでなく市外からも人が集まりスポーツやレクリエーション活動を日常的に楽しむ姿が見られます。



写真は川崎フロンターレのホームスタジアムでもある等々力陸上競技場です。



## 6. 計画的に整備された住宅地

小田急小田原線や東急田園都市線

のまわりには、あらかじめ全体的な街なみや眺望を考慮して計画的に建てられた住宅地が多くあります。こうした住宅地では「建物の高さ」、「建物の色」、「植木や花壇」などのルールが定められているものもあります。みんなで一緒に良い街なみをつくろうという思いが、建てられてからだいぶ時間が経った今でも、落ち着いた住宅と緑が一緒になって素敵な景観を作り出しています。

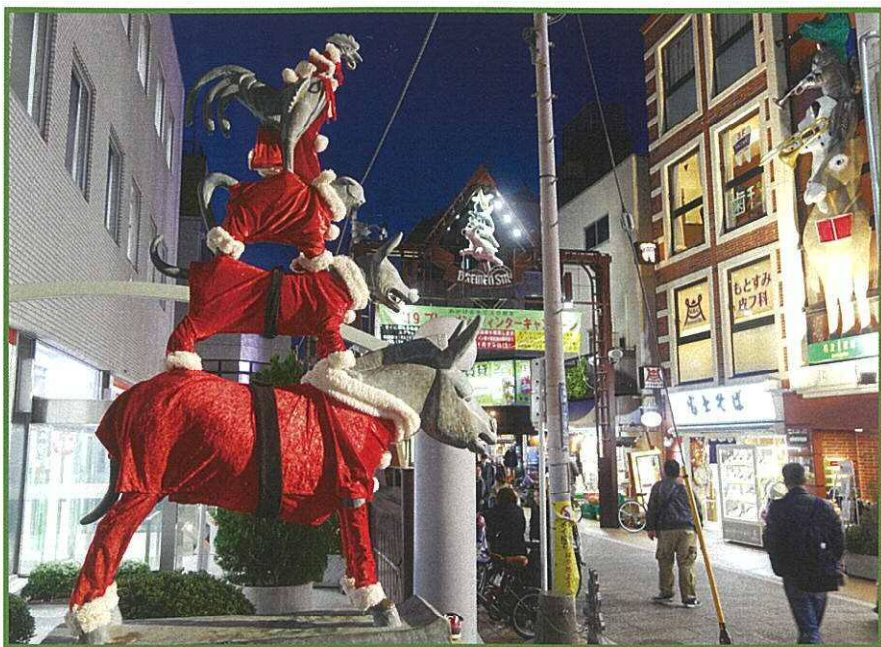


写真は麻生区の新百合ヶ丘駅の北側にある新百合山手地区です。この地区は平成12年に「新百合山手都市景観形成地区」に指定され、地元の方が中心となって、景観まちづくりを進めています。



## 7. ヨーロッパのような落ち着きと温かみのある霧<sup>ふんいき</sup>の商店街

プレーメン通りでは、ドイツ・プレーメン市との交流<sup>こうりゅう</sup>を通じて培ったまちづくりの考え方を活かし、落ち着いた温かみのある霧<sup>ふんいき</sup>の商店街の街なみ<sup>まち</sup>づくりに取り組んでいます。子どもや孫の世代に引き継いでいける美しい街なみ<sup>まち</sup>づくりを目指し、この地区は平成22年に「プレーメン通り都市景観形成地区<sup>としけいかんけいせいちく</sup>」に指定され、地元の方が中心となって、景観まちづくりを進めています。



## 8. 坂道のある地形を活用した見晴らしの良い公園<sup>みは</sup>

近所の公園や広場<sup>ひろば</sup>は、地域の方がレクリエーションや休憩<sup>きゅうけい</sup>などで気軽に緑を感じることでできる場であるとともに、美化運動<sup>びかかつどう</sup>や地域のイベント等にも活用できます。写真は宮前区<sup>みやまへさき</sup>の鷺沼駅<sup>さぎぬま</sup>近くにある鷺沼北公園<sup>さぎぬまきたこうえん</sup>からの見晴らしです。宮前区は坂が多く、地形を活かした見晴らしの良い公園が各所にあります。遠くの山<sup>やま</sup>なみやビル群<sup>ビルぐん</sup>、近くの住宅地<sup>じゅうよう</sup>等が見られる景色は、地域の重要な景観となっています。



## 9. 昔のたたずまいを残す旧街道

市内には、<sup>とうかいどう</sup>東海道、<sup>なかはらいどう</sup>中原街道、<sup>おおやまかいどう</sup>大山街道など、<sup>れきしてき</sup>歴史的に重要な街道筋があり、江戸期には、多くの人が行きかい、にぎわいました。沿道やその周辺には<sup>でんとうてきかおく</sup>伝統的の家屋や<sup>しせきなど</sup>史跡等が残っており、昔の<sup>おもかげ</sup>面影を感じることができます。



写真は高津区の溝の口駅から多摩川まで延びる<sup>おおやまかいどうぞ</sup>大山街道沿いに古くからある蔵です。<sup>くら</sup>大山街道地区では、建物のデザインに<sup>ながや</sup>長屋や<sup>まちやなど</sup>町屋等の歴史を受け継いだ<sup>でんとうてき</sup>伝統的なデザインを用いています。この地区は平成18年に「<sup>おおやまかいどうとしけい</sup>大山街道都市景観形成地区」に指定され、<sup>せいちく</sup>地元の方が中心となって、<sup>しやう</sup>景観まちづくりを進めています。



## 10. 懐かしい風景を残す農地景観

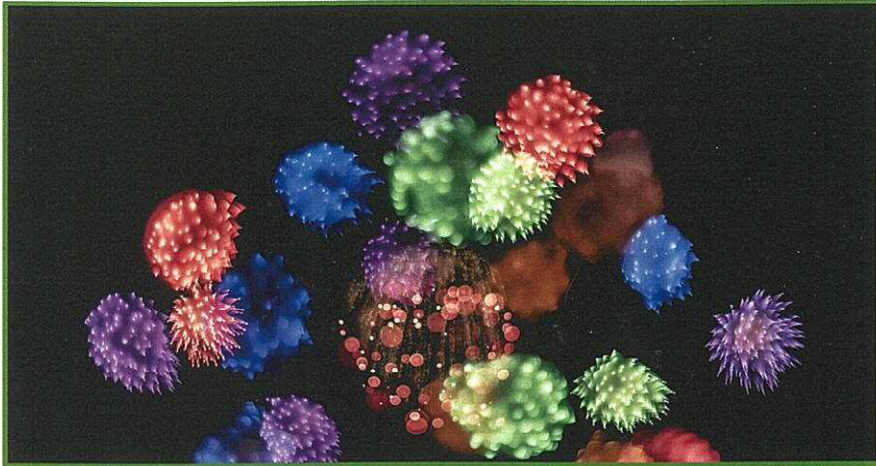
川崎市の北西側の<sup>ほくせいぶ</sup>黒川、<sup>くろかわ</sup>岡上、<sup>おかがみ</sup>早野地区は、<sup>こういきでき</sup>広域的に連なる<sup>たまきゅうりょう</sup>多摩丘陵に位置し、<sup>じゅうよう</sup>緑と農地の重要な<sup>きよてん</sup>拠点となっており、昔懐かしい農地景観が残されています。丘に囲まれた地域に広がる農地は、水田や畑として<sup>たがや</sup>耕されて、季節の変化を感じることができます。こうした自然豊かな<sup>かんきよう</sup>環境は、人々に<sup>うるお</sup>潤いと<sup>やす</sup>安らぎを<sup>あた</sup>与えてくれます。また、<sup>かいほつ</sup>開発が進む中部地域にも<sup>いっしょ</sup>まとまった農地が存在しており、住宅と農地が一緒になることで、都会のオアシスとして<sup>じゅうよう</sup>重要な地域<sup>ちいき</sup>になっています。



### 1 1. 夜空に打ちあがる花火

### 1 2. 地域のイメージが向上するイベント

駅の周辺や地域の資源を活かした数多くのイベントやお祭りが市民により実施されています。こうした多くの人が集まるイベント等は、街なみに彩りをもたらし、地域のイメージ向上や景観まちづくり意識を高めると期待されています。写真は多摩川の花火大会とハロウィンパレードです。夜空に打ちあがる花火は夏の風物詩として人々を魅了し、川崎駅周辺でのハロウィンパレードは多くの方が参加し、にぎわいます。



### 1 3. 地域に根差した商店街

駅の周辺や旧街道沿いを中心に地域に根差した商店街が発達し、地域の交流の場にもなっています。写真は川崎区の川崎新町駅の近くにある京町商店街です。下町情緒が感じられ、並べられた商品や買い物客などによりにぎわっている景観が見られます。



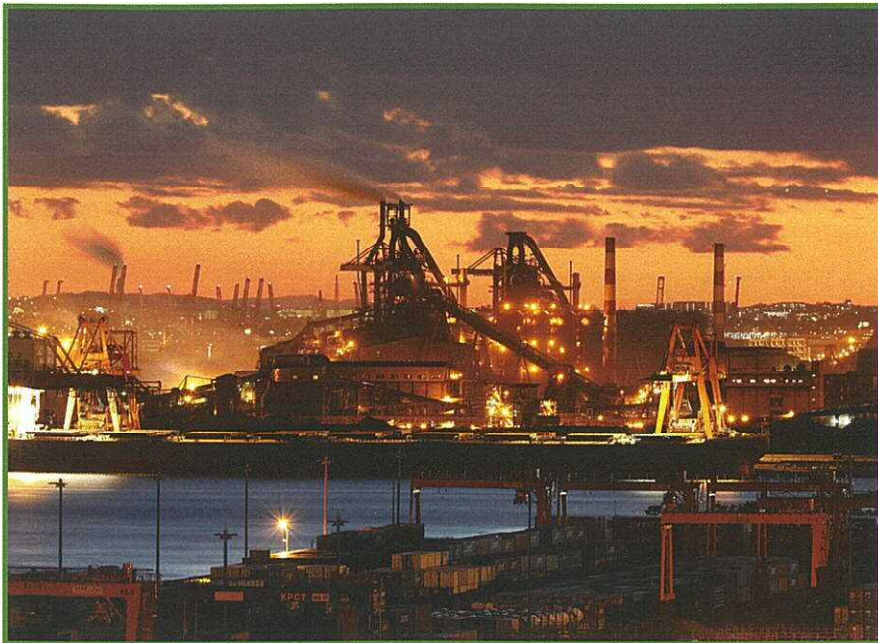


## 14. ライトアップされた工場夜景

川崎区りんかいぶの海側の臨海部は、その多くは明治時代以降に工業の発展のために埋め立てられ、つくられた地域です。高度成長期には京浜臨海工業地帯の中心となり、現在でも広く大きな土地を活用して港に関する施設、工場や物流などの施設、石油コンビナートなどの大きな設備が建てられています。タンカーなどが岸につく様子など、産業と海運が生み出す力強い景観が見られます。また、夜間の管理用の照明等によりライトアップされた工場夜景は美しく、カメラ好きな人などから注目されています。



写真は川崎区ひがしおうぎしまの東扇島にある川崎マリエンてんぼうだいの展望台からの景色です。

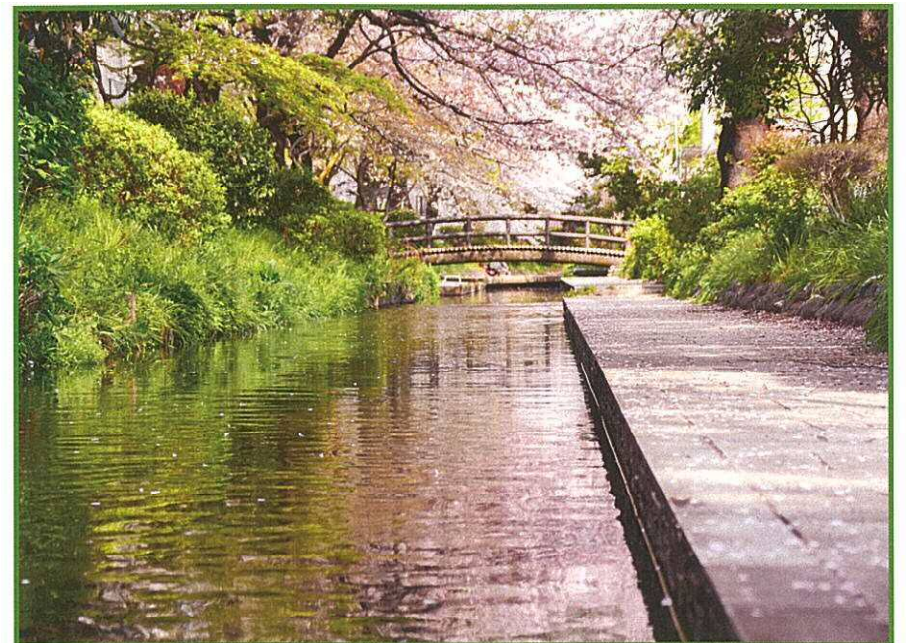


## 15. 市内を流れる用水を活用した水辺空間

二ヶ領用水は、新たに田んぼをつくるために江戸時代につくられた農業用水であり、約400年にわたり川崎の発達を支えた歴史があります。久地円筒分水よりも上流の区間においては、まわりの豊かな自然をそのまま活用するように桜並木が整備されたり、市民が水に親しむことができるように工夫されたりしています。水辺に近づける場所も多く、付近の市民が水とふれあう貴重な空間として活用されています。



写真は多摩区しゅくがわらの宿河原駅付近の宿河原堀地区です。この地区は地元の方が中心となって建物の色や植木に関するルールを作り、宿河原堀の景観を守る取り組みをしています。



## 16. 四季が感じられる生田緑地

生田緑地は、かけ地が連なった地形や本来の植生の緑を活かした公園となっていて、園内に併設されている岡本太郎美術館は、建物の一部を地下にして隠すなど、自然と一体的になるように考えられて建てられています。美術館以外にも、川崎市立日本民家園、かわさき宙と緑の科学館、川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム、生田緑地ばら苑など、様々な施設があります。

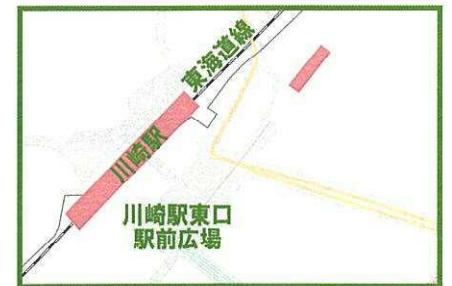
写真は紅葉の時期の日本民家園です。



## 17. 公共空間を活用したイベント

川崎駅、武蔵小杉駅、新百合ヶ丘駅の周辺では、オフィス、図書館などの文化施設・商業施設などがあり、たくさんの方が集まる場所となっています。市外の方や外国からの観光客が行きかうなど、様々なにぎわいから景観がつけられています。川崎駅周辺では、駅前広場などの公共空間の整備に加えて、公共空間を活用したイベントを行うことでまちのにぎわいが生まれ、それがまちの景観となっています。

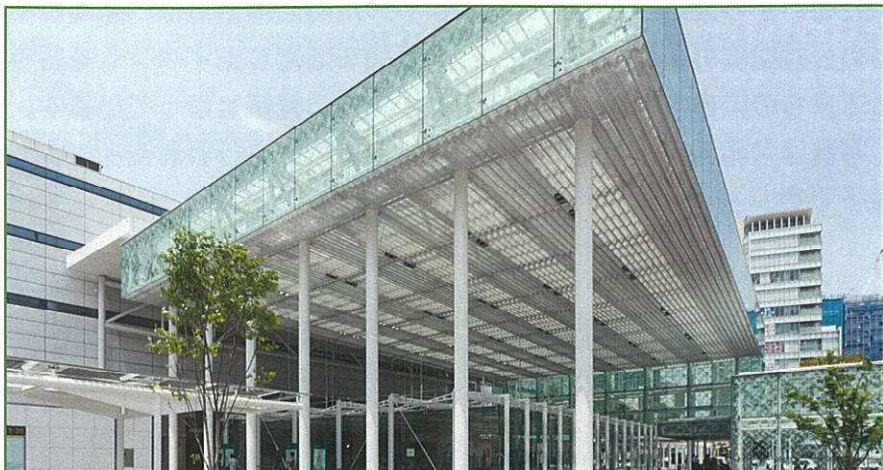
写真は令和元年11月に川崎駅東口駅前広場で行われたイベントの様子です。



18. 明るい色合いで整備された川崎駅東口の駅前空間  
 19. 落ち着いた色合いで整備された川崎駅西口のまちなみ

東口周辺については、明るい色合いで調和のとれた街なみづくり、西口周辺については、落ち着いた色合いで調和のとれた街なみづくりに取り組んできました。写真は東口の再整備されたガラス屋根と西口のミュージアム川崎です。

川崎市ではこれらの地区の良好な都市景観を維持・発展させていくため、景観計画特定地区の指定を行いました。



19

20. 住民と行政が協力してつくられた地域の中心となるまち

新百合丘駅周辺地区は、小田急多摩線の整備をきっかけとして新しいまちの建設に向け、住民・行政・企業による協力型のまちづくりが行われてきました。写真は麻生区の新百合丘駅南口駅前デッキの景色です。



街なみのルール作りに取り組んだ地元の方を中心に、定期的な落書き消し活動や各種の芸術・文化イベントを共催するなど、積極的な活動を行っています。川崎市ではこちらの地区の良好な都市景観を維持・発展させていくため、平成19年に新百合丘駅周辺景観計画特定地区の指定を行いました。なおこの地区は、川崎市で唯一、「都市景観大賞」を平成10年に受賞しています。



20

## 21. 地域のシンボルとなる桜並木

川崎市では街路樹が連続して美しく並ぶように維持管理に努めています。写真は平成29年に宮前区で行った「宮前坂道フォトコン」の受賞作品で、宮前区の宮崎台駅前にあるさくら坂の様子です。



坂道といえば、きつく、厳しく、さげたいイメージがあると思いますが、「景観」の視点に立つことで、坂道の違った魅力が発見できると考えて写真コンテストを行いました。自分のまちの景観を再認識してもらおうきっかけ作りとなりました。さくら坂は、春には満開の桜が美しい景観を見せています。地元の方は毎年桜まつりを開催しています。



## 22. 再開発により生まれ変わったランドマークを活用したまち

武蔵小杉駅周辺地区は、川崎市の中部エリアの個性と魅力にあふれた広域拠点と位置付けられています。駅周辺の複数の工場や運動場などの再開発等により駅前広場や道路等がつけられました。



写真は多摩川の対岸から中原区の武蔵小杉駅周辺を眺めた様子です。駅前広場等の整備とあわせて建てられた高層マンション等による一体感のある新しい景観が形成されています。川崎市ではこちらの地区の良好な都市景観を維持・発展させていくため、平成25年に武蔵小杉周辺景観計画特定地区の指定を行いました。



### 23. 先端的なものづくり施設等による 次世代の先進性が感じられるまち

新川崎駅周辺地区は、電車の停車場等の再編整備により、道路や公園等の整備にあわせて、ものづくり・研究開発施設の建築が進んでいます。区域を5つのゾーンに分け、ゾーンごとに特徴のある街なみづくりを行っています。写真は地区内の研究開発施設です。川崎市ではこちらの地区の良好な都市景観を維持・発展させていくため、平成28年に新川崎景観計画特定地区の指定を行いました。



23

### 24. 周辺環境と調和した魅力的なデザインの公共施設

川崎市が整備している道路、公園、庁舎などの公共施設は、まわりに与える影響が大きく、良好な都市景観づくりをする上で重要な役割を果たしています。また、公共施設は、多くの人々の生活に密接に関わっていることから、そこで生活し働く市民が愛着と誇りを持てるものであることが重要です。川崎市では、周辺環境と調和した魅力的なデザインの公共施設ができるよう、ガイドラインを作成して都市景観づくりを進めています。



こちらの絵は2023年に完成予定の川崎市役所の本庁舎です。



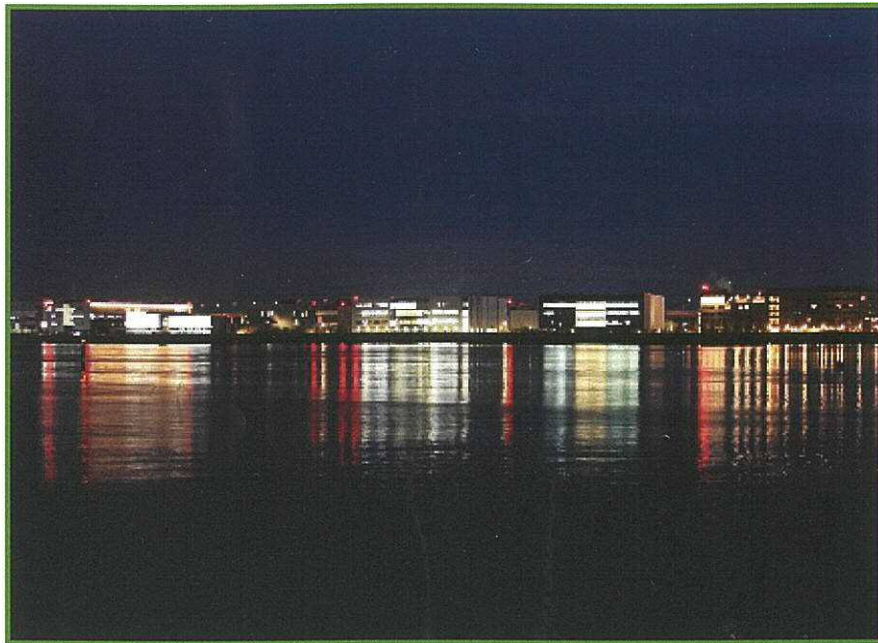
24

## 25. 街なみの顔となる魅力的なデザインの建築物

景観やまちづくりに配慮した優れたデザインの建物は、良好な都市景観をつくる上で重要な役割を果たしています。川崎市では、こうした街なみに配慮した建物を整備してくれた事業者に対し、表彰を行っています。



写真は多摩川の対岸から眺めた様子で、空の玄関口である羽田空港に来る世界各国の方からの見え方に配慮しています。



## 26. アート等が配置された広場

建物のエントランス広場や多くの人が行きかう誰でも通れる広場等に設置された芸術作品は、まちの豊かさを感じさせ、現代の街なみの魅力を高めています。写真はミュージア川崎のエントランス広場にある作品です。

